

平成28年1月の鉱工業活動 図表集

平成28年3月15日
経済解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

平成28年1月 鉱工業指数(確報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	99.8	98.0	112.1	113.5
前月比	3.7%	3.5%	▲ 0.2%	▲ 2.2%
指数水準	H27.1 102.1以来 I H20.2 117.3 II H20.1 117.0 III H20.3 116.2	H27.10 98.8以来 I H20.1,2 118.2 II H20.3 118.1 III H20.5 116.4	H27.11 111.9以来 ①H23.3 97.7 ②H22.8 98.3 ③H21.12,H22.9 99.1	H27.10 112.0以来 ①H20.2 94.6 ②H20.4 95.9 ③H20.5 97.0
前月比の動き	3か月ぶり+ (H27.10以来)	3か月ぶり+ (H27.10以来)	3か月ぶり▲ (H27.10以来)	3か月ぶり▲ (H27.10以来)
前月比幅	H27.1 4.1%以来 I H23.5 6.8% II H21.4 4.4% III H23.6 4.2%	H27.1 5.5%以来 I H23.6 8.0% II H23.5 5.6% III H27.1 5.5%	H27.10 ▲1.9%以来 ①H23.3 ▲5.8% ②H21.2 ▲3.9% ③H21.3 ▲3.1%	H27.10 ▲3.0%以来 ①H23.6 ▲11.7% ②H21.6 ▲6.7% ③H21.3 ▲6.0%
前年同月比(原指数)	▲ 3.8%	▲ 5.8%	0.3%	4.1%
前年同月比の動き	2か月連続▲ (H27.12~当月)	2か月連続▲ (H27.12~当月)	3か月ぶり+ (H27.10以来)	2か月連続+ (H27.12~当月)
前年同月比幅	H27.5 ▲3.9%以来 ①H21.2 ▲37.2% ②H21.3 ▲32.7% ③H21.4 ▲30.0%	H25.2 ▲8.6%以来 ①H21.2 ▲36.1% ②H21.3 ▲32.1% ③H21.1 ▲30.9%	H27.9 2.1%以来 I H24.3, 4 12.1% II H23.8 9.0% III H23.9 8.1%	H27.5 6.4%以来 I H21.2 64.6% II H21.1 54.8% III H21.3 47.9%

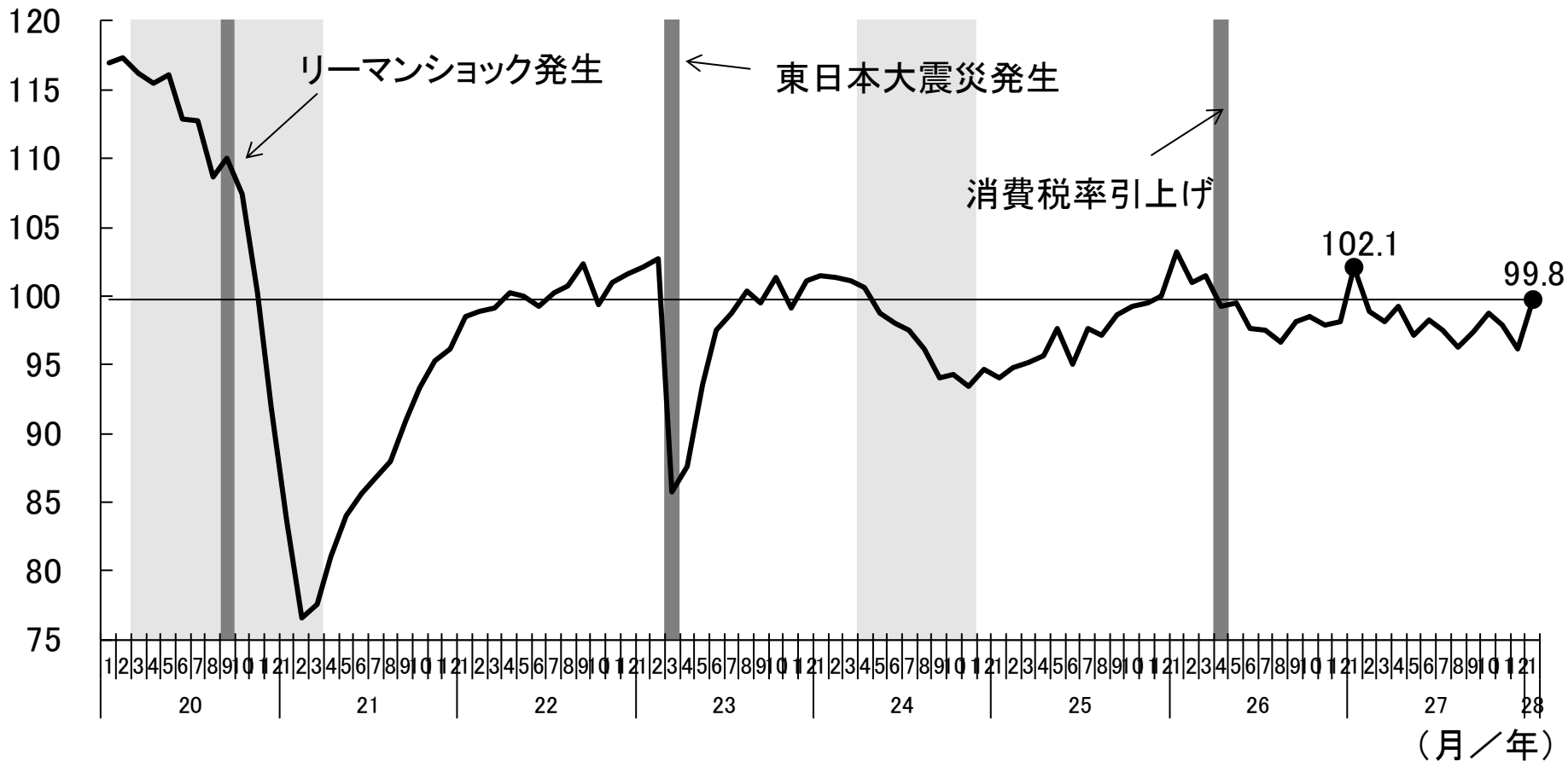
1) ▲はマイナス

2) I～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

鉱工業生産指数の動向

- 平成28年1月の生産指数は99.8(前月比3.7%)と3か月ぶりの上昇。
- 平成27年1月の102.1以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



- (注) 1. 鉱工業指数(IIP)とは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫などを基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鉱工業全体の動きを示す代表的な指標。
2. 薄色のシャド一部分は景気後退局面。

鉱工業生産を大きく動かした品目

業種別

		業種・品目名	前月比	寄与率
○ 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	はん用・生産用・業務用機械工業	7.2%	27.2%
	品目	金型 半導体・フラットパネル製造装置	36.6% 10.5%	5.4% 4.2%
	2位の業種	輸送機械工業	2.9%	14.9%
	品目	乗用車 自動車部品	4.8% 4.0%	9.8% 7.2%
	3位の業種	電子部品・デバイス工業	6.3%	14.1%
	品目	集積回路 半導体素子	18.3% 5.7%	14.2% 0.9%
○ 鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	石油・石炭製品工業	▲ 1.2%	▲ 0.5%
	品目	石油製品	▲ 1.2%	▲ 0.5%
	2位の業種	窯業・土石製品工業	▲ 0.3%	▲ 0.3%
	品目	ガラス・同製品 セメント・同製品	▲ 4.7% ▲ 3.3%	▲ 1.6% ▲ 0.5%
	3位の業種			
	品目			

寄与率： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い
全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら▲100%になる

※ **業種別** **全体** 内の各品目は、個別品目ではなく、個別品目を統合した
分類によるもの。

全体

		品目名	前月比	寄与率
○ 鉱工業生産を上昇方向 に引っ張った3品目	1位	集積回路	18.3%	14.2%
	2位	乗用車	4.8%	9.8%
	3位	自動車部品	4.0%	7.2%
○ 鉱工業生産を低下方向 に引っ張った3品目	1位	化粧品	▲ 4.2%	▲ 3.2%
	2位	運搬機械	▲ 13.9%	▲ 1.9%
	3位	電子計算機	▲ 6.0%	▲ 1.8%

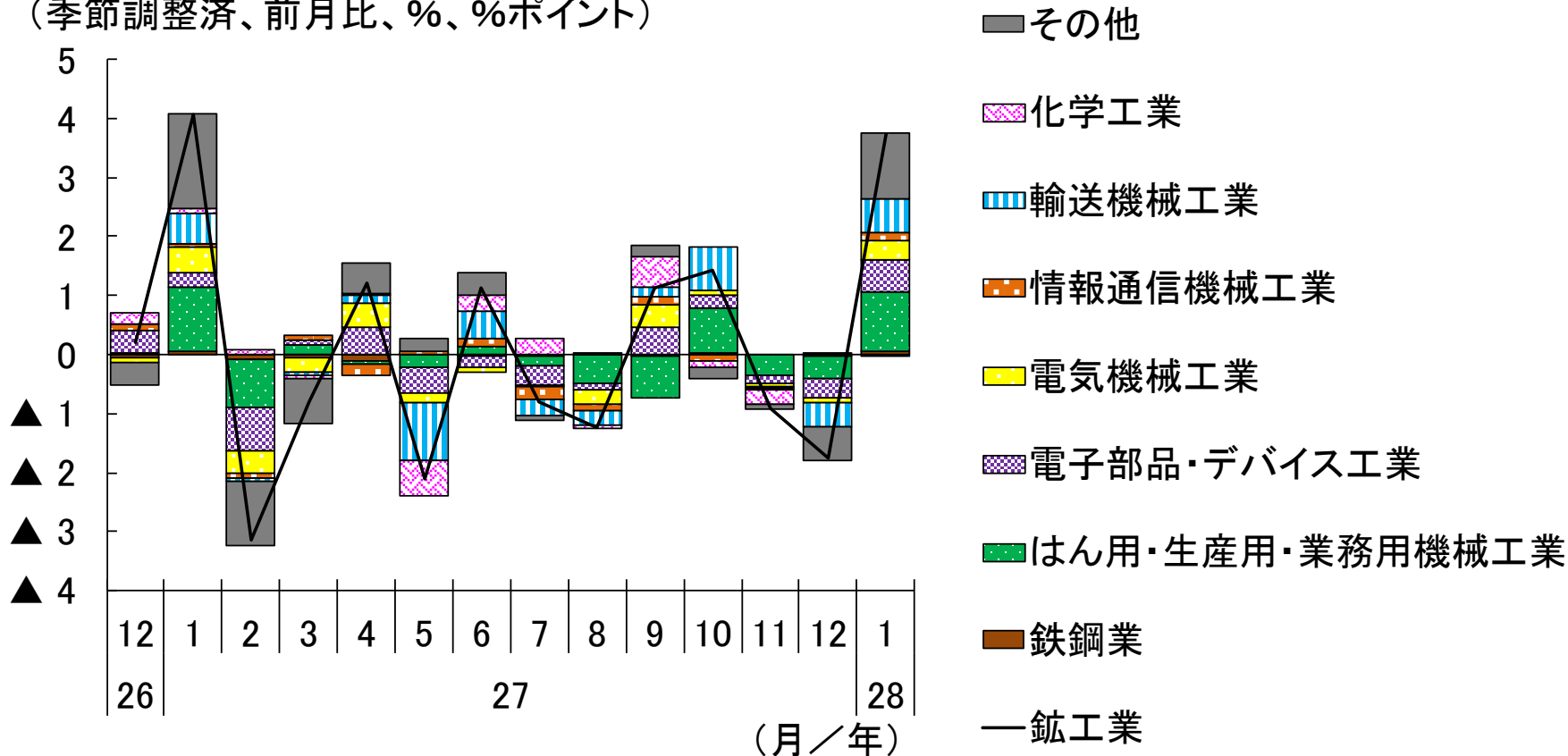
財別 (=用途別)

	解説	品目名	前月比	寄与率
資本財	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	6.8%	27.9%
		半導体製造装置	9.9%	3.1%
		反応用機器	190.8%	2.9%
生産財	原材料として投入される製品	生産財	2.0%	26.7%
		モス型半導体集積回路(メモリ)	29.2%	10.3%
		モス型半導体集積回路(CCD)	32.5%	3.4%
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	5.5%	15.3%
		普通乗用車	5.5%	7.4%
		カメラ用交換レンズ	37.7%	2.4%
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	4.6%	6.9%
		橋りょう	53.6%	5.5%
		木造住宅用アルミニウムサッシ	8.3%	0.5%
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	1.6%	6.0%
		合成洗剤	15.0%	2.7%
		美容液	15.5%	1.5%

鋳工業生産への業種別寄与度分解

- 平成28年1月の生産指数(季節調整済)は、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇したため、前月比3.7%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

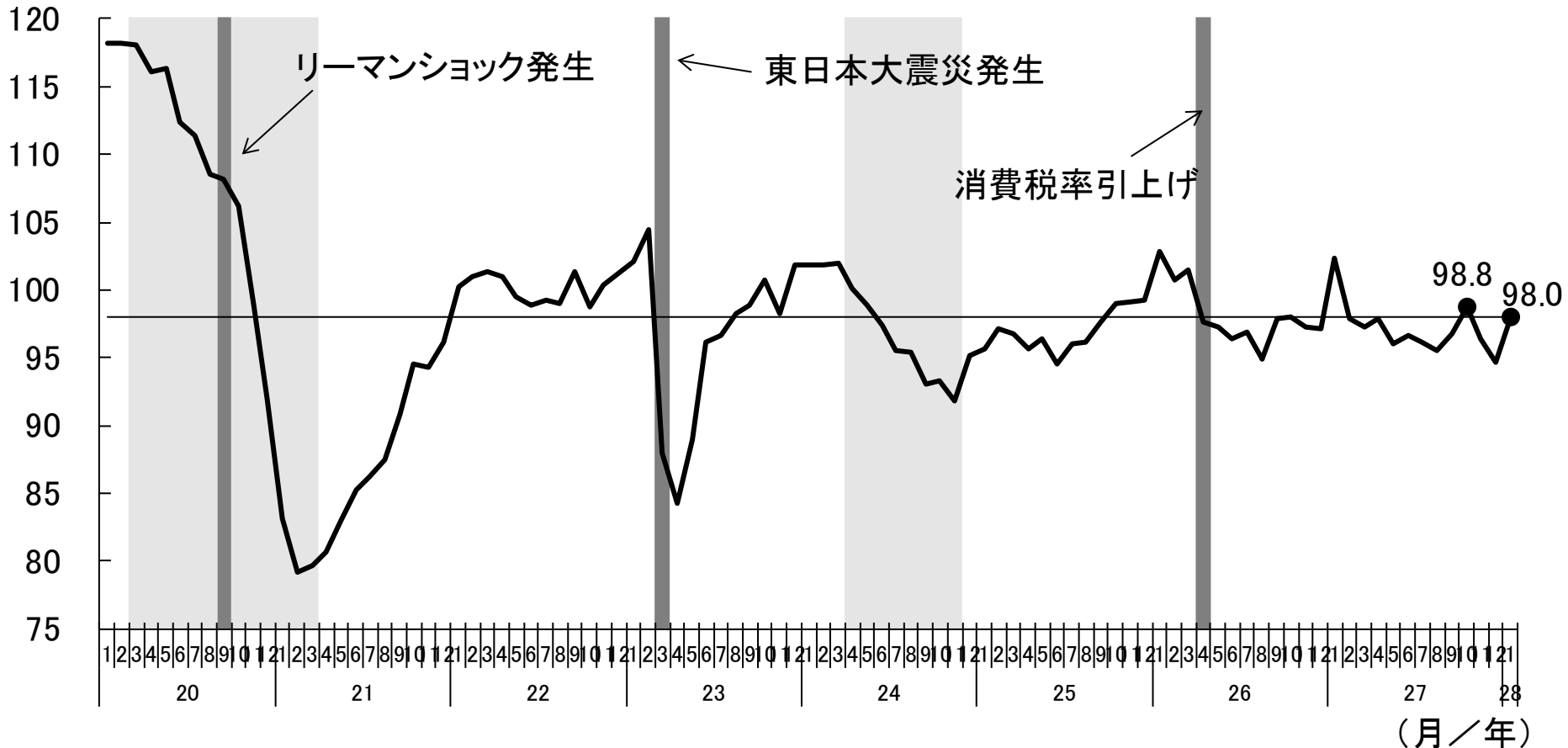


(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、食料品・たばこ工業、その他工業、鋳業が含まれる。

鋳工業出荷指数の動向

- 平成28年1月の出荷指数は98.0(前月比3.5%)と3か月ぶりの上昇。
- 平成27年10月の98.8以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

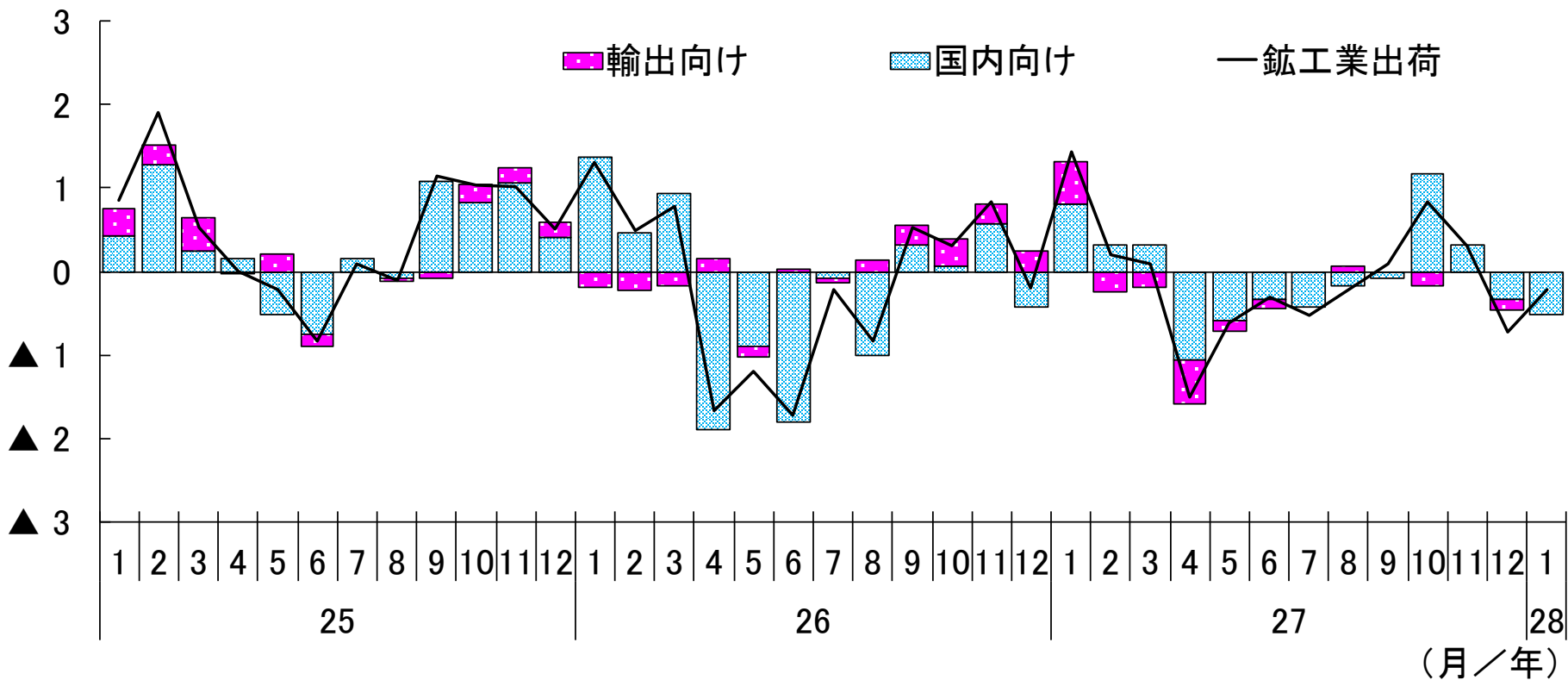


(注)薄色のシャド一部分は景気後退局面。

出荷内訳表(後方3か月移動平均・前月比寄与度)の動向

- 後方3か月移動平均で均してみると、鉱工業出荷の前月比は低下。
内訳をみると、国内向けが低下。

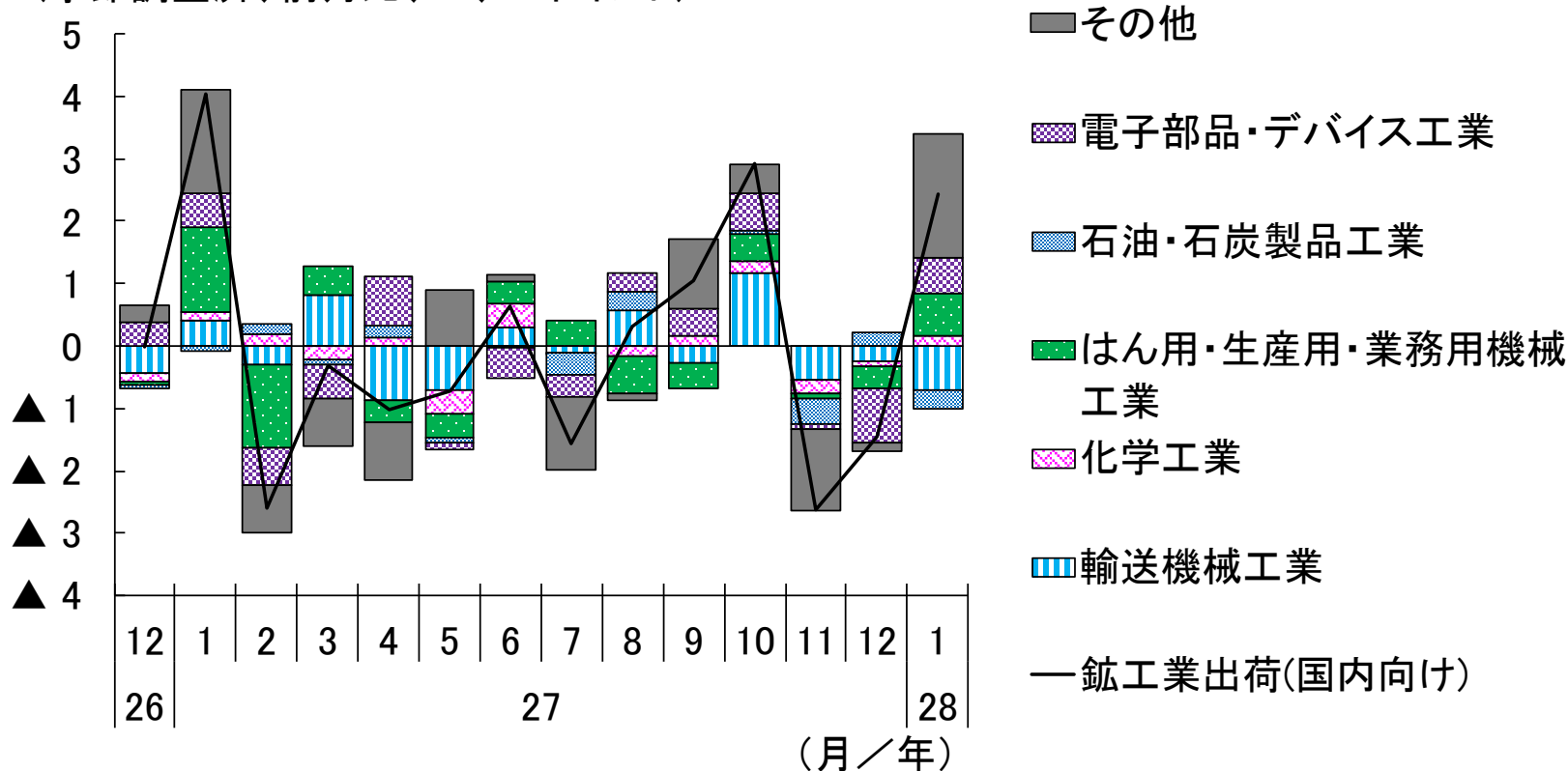
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



主要業種別・国内向け出荷の動向

- 平成28年1月の鉱工業・国内向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業などが低下したものの、はん用・生産用・業務用機械工業などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

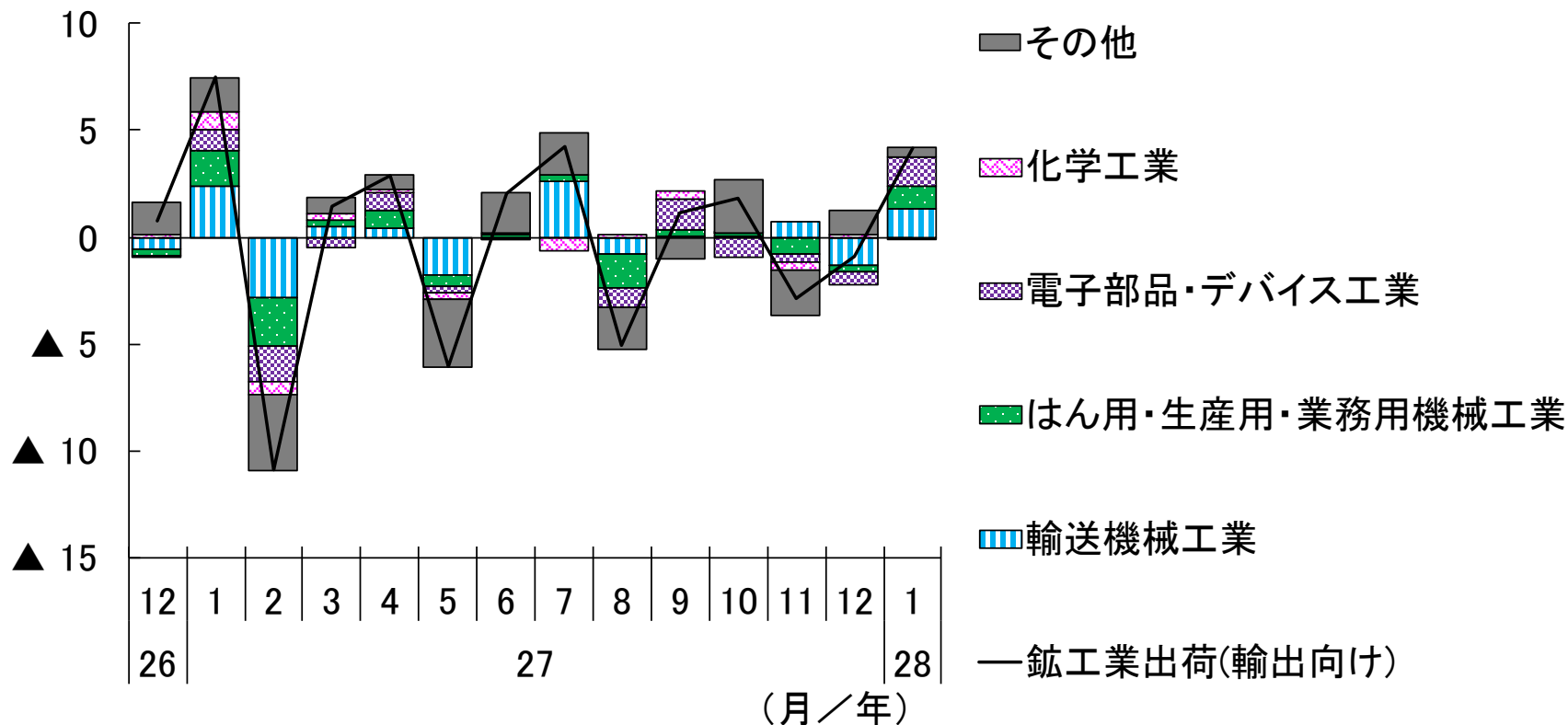


(注)主要業種とは、鉱工業・国内向け出荷(ウエイト8028.51)のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。
 具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウエイト1658.38)、化学工業(同、同860.84)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)。

主要業種別・輸出向け出荷の動向

- 平成28年1月の鉱工業・輸出向け出荷を、主要業種別にみると、化学工業が低下したものの、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

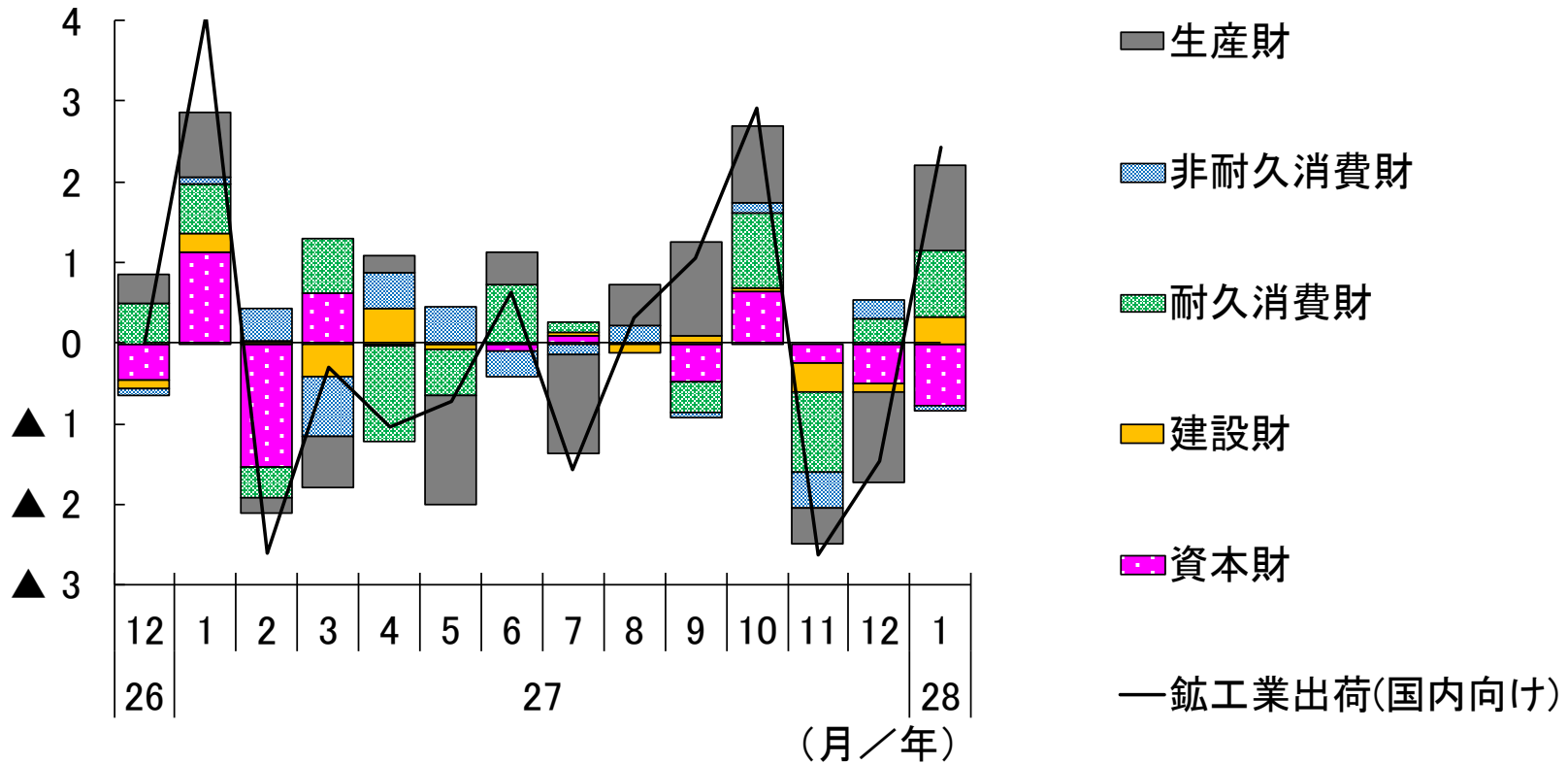


(注) 主要業種とは、鉱工業・輸出向け出荷(ウエイト1971.49)のうち、ウエイトが大きい業種(上位4業種)を選定。具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウエイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(同、同180.06)の4業種。

財別・国内向け出荷の動向

- 平成28年1月の鉱工業・国内向け出荷を、財別にみると、資本財などが低下したものの、生産財などが上昇。

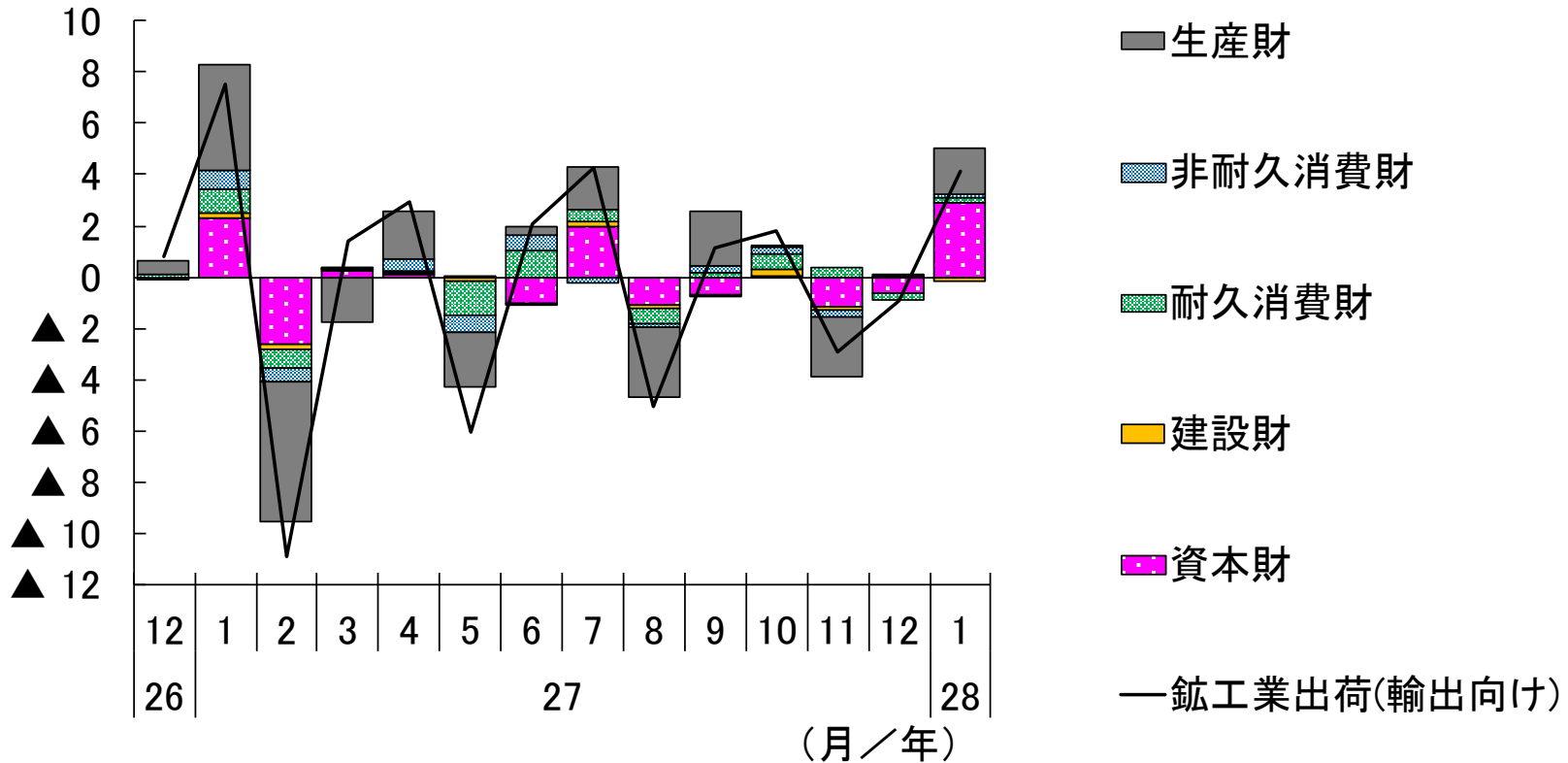
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



財別・輸出向け出荷の動向

- 平成28年1月の鉱工業・輸出向け出荷を、財別にみると、建設財が低下したものの、資本財などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



国内向け出荷の財別・業種別の変動寄与

財別分類	前月比 (%)	寄与率 (%)
鉱工業	2.4	56.0
鉱工業用生産財	2.7	26.7
電子部品・デバイス工業	8.2	13.6
輸送機械工業	5.8	8.9
耐久消費財	6.3	18.6
情報通信機械工業	16.0	4.8
輸送機械工業	0.6	1.4
建設財	5.4	7.9
金属製品工業	9.1	5.7
その他工業	3.9	0.8
非耐久消費財	▲ 0.5	▲ 1.7
食料品・たばこ工業	▲ 1.0	▲ 1.5
石油・石炭製品工業	▲ 2.0	▲ 1.1
その他用生産財	▲ 3.0	▲ 3.8
石油・石炭製品工業	▲ 4.8	▲ 3.5
プラスチック製品工業	▲ 4.8	▲ 0.4
資本財	▲ 4.2	▲ 17.9
輸送機械工業	▲ 23.9	▲ 27.6
非鉄金属工業	▲ 17.5	▲ 1.6

寄与率

▲ 出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら100%になる。

(注) 試算値

輸出向け出荷の財別・業種別の変動寄与

財別分類	前月比 (%)	寄与率 (%)
鉱工業	4.1	23.9
資本財	15.4	16.7
輸送機械工業	26.2	7.6
はん用・生産用・業務用機械工業	12.4	7.1
鉱工業用生産財	2.2	7.5
電子部品・デバイス工業	11.5	7.8
非鉄金属工業	32.9	6.2
その他用生産財	37.2	6.7
石油・石炭製品工業	71.4	6.5
金属製品工業	42.1	0.3
耐久消費財	1.7	1.3
輸送機械工業	2.9	2.0
情報通信機械工業	6.1	0.3
非耐久消費財	3.2	0.6
石油・石炭製品工業	29.5	0.6
食料品・たばこ工業	17.1	0.5
建設財	▲ 7.8	▲ 0.9
プラスチック製品工業	▲ 13.1	▲ 0.5
鉄鋼業	▲ 14.7	▲ 0.3

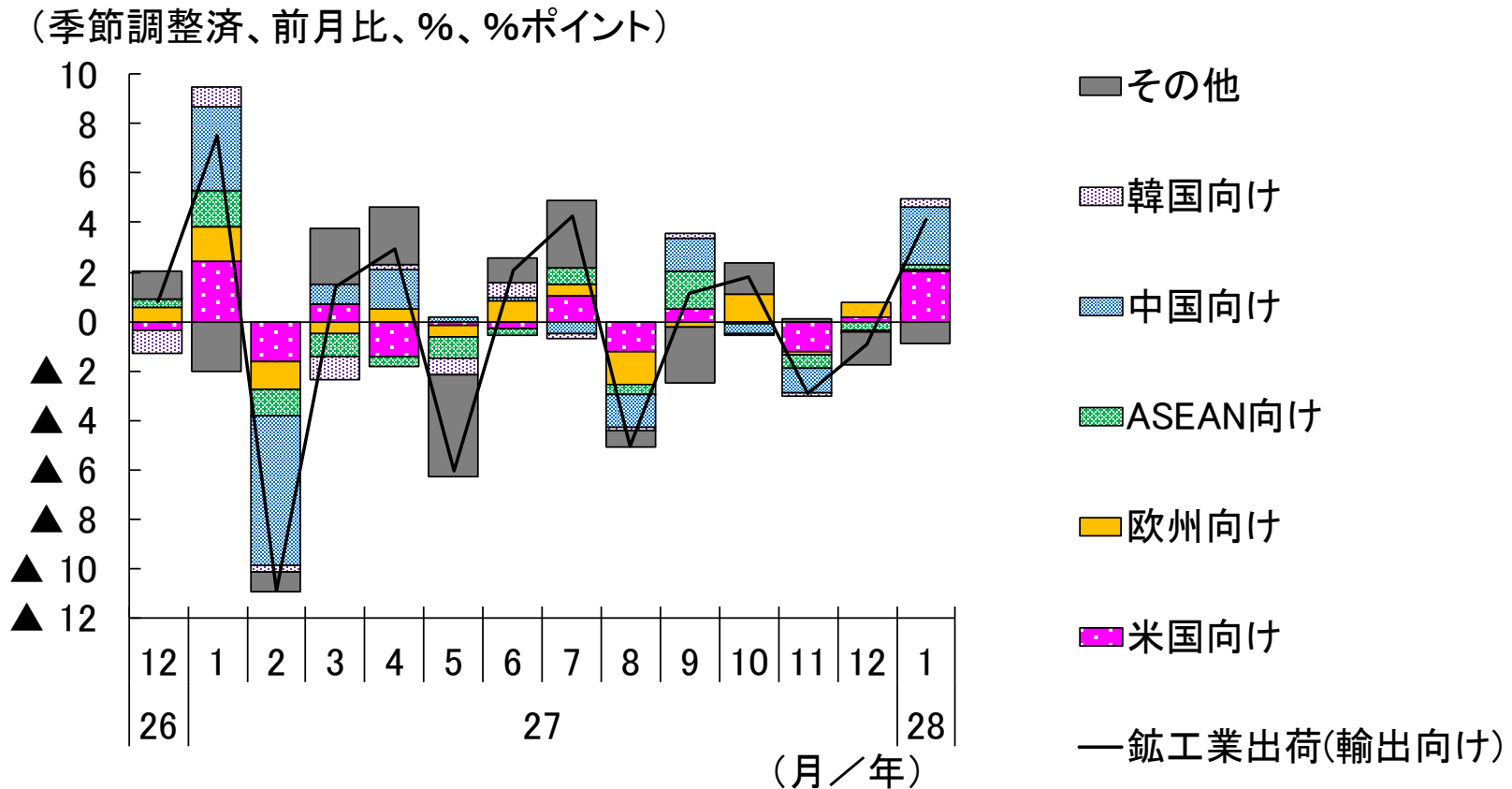
寄与率

▲ 100%になる。当月が上昇なら100%、低下なら業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・

(注)試算値

地域別・輸出向け出荷の動向

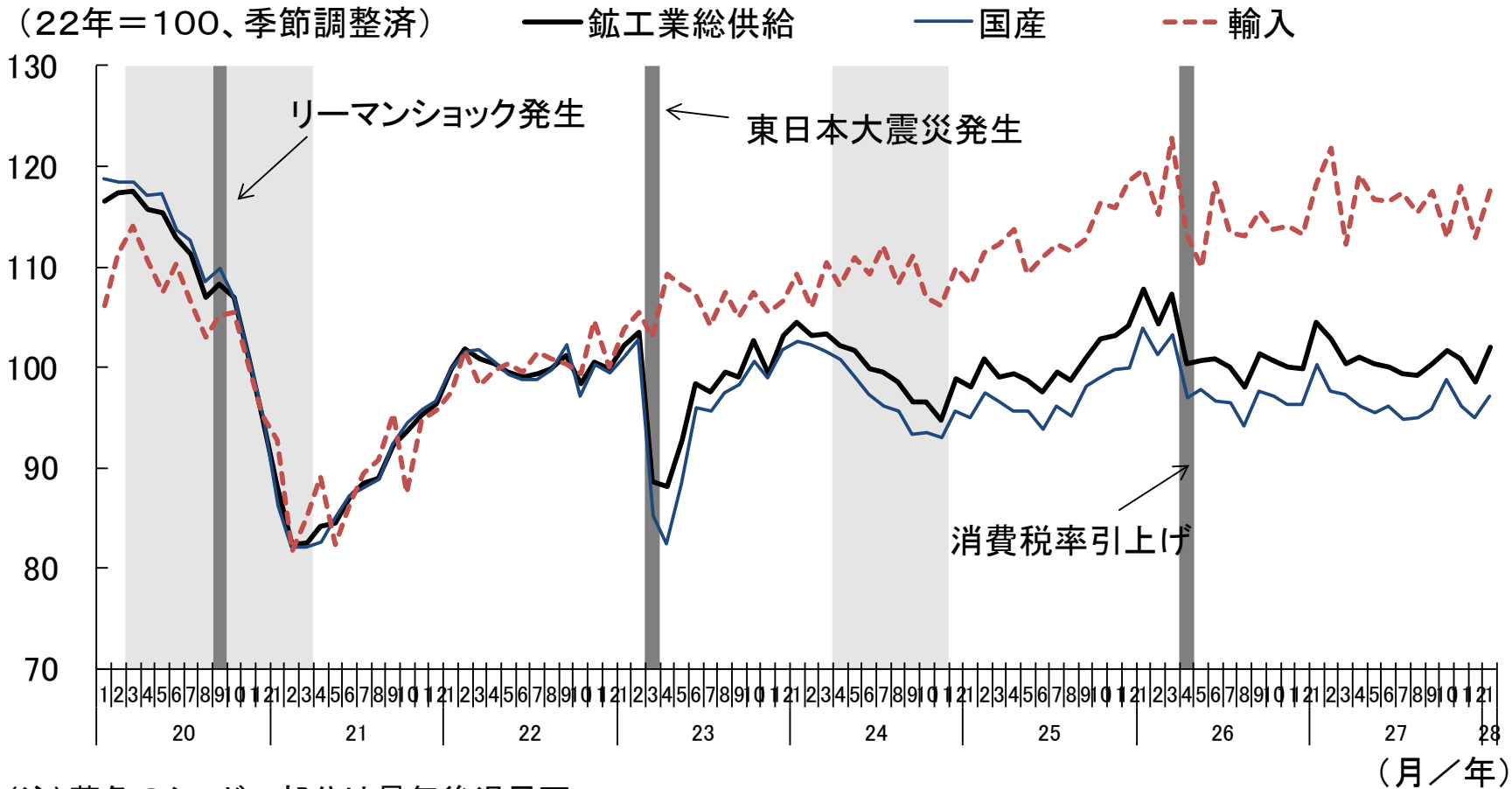
- 平成28年1月の鉱工業・輸出向け出荷を、地域別にみると、中国向けなどが上昇。



(注) 試算値

総供給表の動向

- 平成28年1月の鉱工業総供給は102.0(前月比3.4%)と3か月ぶりの上昇。
- 内訳をみると、国産は97.1(前月比2.3%)と3か月ぶりの上昇。輸入は117.7(同4.3%)と2か月ぶりの上昇。

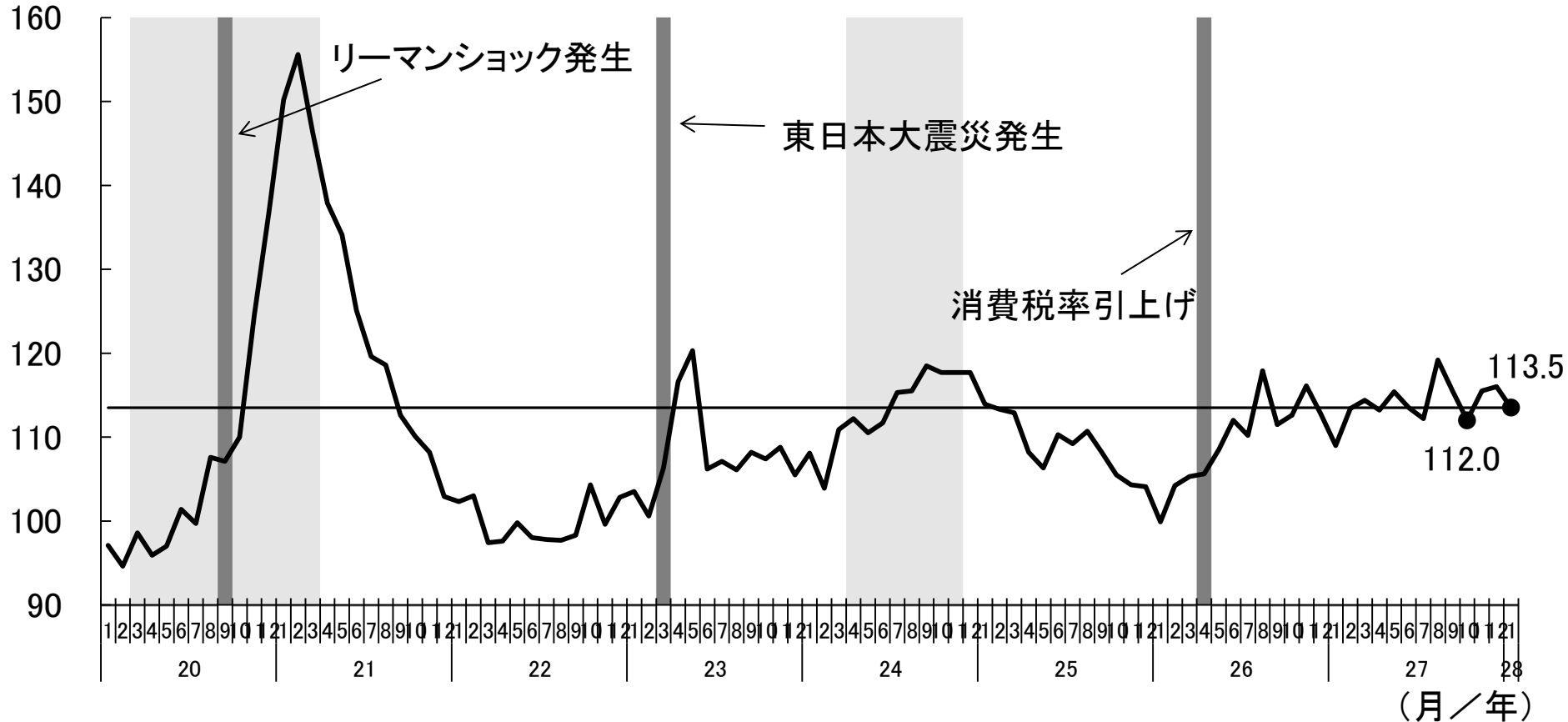


(注) 薄色のシャド一部分は景気後退局面。

鉱工業在庫率指数の動向

- 平成28年1月の在庫率指数は113.5(前月比▲2.2%)と3か月ぶりの低下。
- 平成27年10月の112.0以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注)薄色のシャド一部分は景気後退局面。

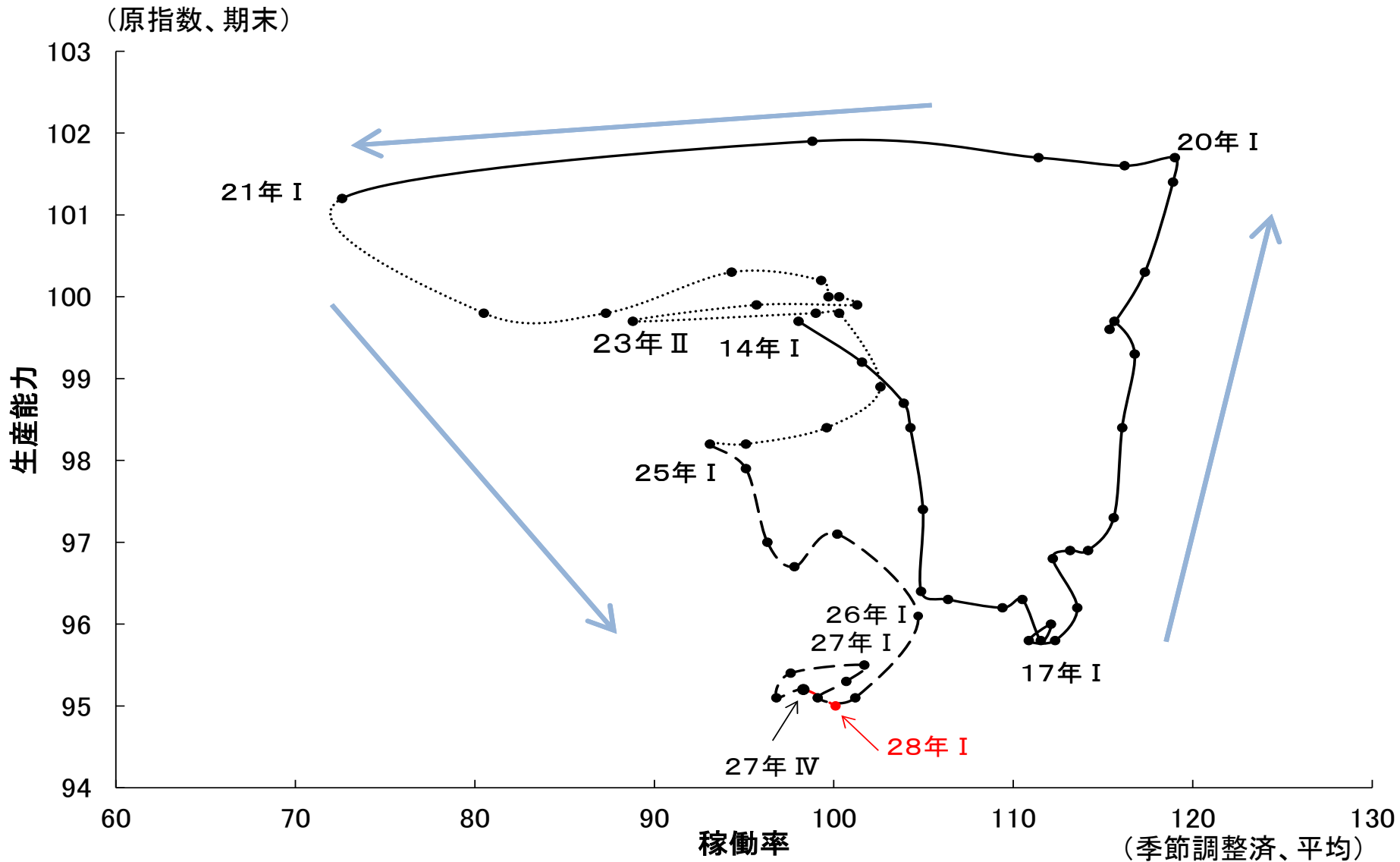
平成28年1月 稼働率・生産能力指数の状況

月次	稼働率			能力		
		機械工業	非機械工業		機械工業	非機械工業
季調済指数	100.1	100.8	99.1	95.0 (原指数)	95.9 (原指数)	93.6 (原指数)
前月比	2.6%	3.8%	0.8%	▲ 0.2%	▲ 0.3%	▲ 0.1%
指数水準	H27.2 101.0以来 I H20.2 119.4 II H20.1 118.8 III H20.3 118.7	H27.2 102.3以来 I H20.2 125.7 II H20.3 124.6 III H20.1 124.4	H27.9 99.1以来 (超)H27.3 99.7以来 I H20.1 110.8 II H20.2 110.7 III H20.3 110.4	22年基準最低水準 ①H26.7, 8, H28.1 95.0 ②H26.6, 9, H27.8, 9 95.1 ③H26.4, 10, 11, H27.11, 12 95.2	H27.9 95.9以来 (超)H26.12 95.6以来 ①H26.7 94.8 ②H26.8 94.9 ③H26.9 95.0	22年基準最低水準 ①H28.1 93.6 ②H27.11, 12 93.7 ③H27.7, 8, 9, 10 93.8
前月比の動き	3か月ぶり+ (H27.10以来)	2か月ぶり+ (H27.11以来)	4か月ぶり+ (H27.9以来)	2か月ぶり▲ (H27.11以来)	2か月連続▲ (H27.12~当月)	2か月ぶり▲ (H27.11以来)
前月比幅	H27.1 3.1%以来 I H23.5 14.4% II H21.4 9.8% III H23.6 6.5%	H27.1 4.3%以来 I H23.5 24.0% II H23.6 10.2% III H21.4 9.9%	H27.9 1.6%以来 I H21.4 8.2% II H23.5 4.1% III H21.5 3.2%	H27.8 ▲0.2%以来 (超)H26.4 ▲0.9%以来 ①H21.4 ▲1.2% ②H26.1 ▲1.1% ③H24.1, H26.4 ▲0.9%	H27.8 ▲0.4%以来 ①H21.4 ▲1.9% ②H24.1, H26.1 ▲1.6% ③H25.4 ▲1.3%	H27.11 ▲0.1%以来 (超)H27.7 ▲0.3%以来 ①H26.4 ▲1.0% ②H21.10, H22.1, 7, H23.1, H24.4 ▲0.4%
前年同月比(原指数)	▲ 5.4%	▲ 8.1%	▲ 1.2%	▲ 0.6%	▲ 0.2%	▲ 1.3%
前年同月比の動き	13か月連続▲ (H27.1~当月)	13か月連続▲ (H27.1~当月)	2か月連続▲ (H27.12~当月)	2か月連続▲ (H27.12~当月)	13か月ぶり▲ (H26.12以来)	88か月連続▲ (H20.10~当月)
前年同月比幅	H27.5 ▲6.8%以来 ①H21.2 ▲43.9% ②H21.3 ▲40.5% ③H21.1 ▲35.0%	H27.5 ▲10.7%以来 ①H21.2 ▲50.8% ②H21.3 ▲46.1% ③H21.1 ▲40.7%	H27.1 ▲1.8%以来 ①H21.2 ▲32.0% ②H21.3 ▲30.7% ③H21.1 ▲25.8%	H27.3 ▲0.6%以来 (超)H26.12 ▲1.9%以来 ①H21.7, 8, H26.11 ▲2.1% ②H26.1, 2, 4, 6, 10 ▲2.0% ③H21.9, H26.12 ▲1.9%	H26.12 ▲1.9%以来 ①H21.8 ▲2.7% ②H21.7, H25.7, H26.1, 2 ▲2.6%	H27.11 ▲1.3%以来 (超)H27.9 ▲1.4%以来 ①H22.12, H23.1 ▲2.1% ②H22.9, 11, H23.2, 5, 6, H26.4 ▲2.0%

1) ▲はマイナス

2) I～IIIは22年基準における最大値から3位まで、①～③は最小値から3位までの数値

生産能力－稼働率の循環関係(平成22年＝100)

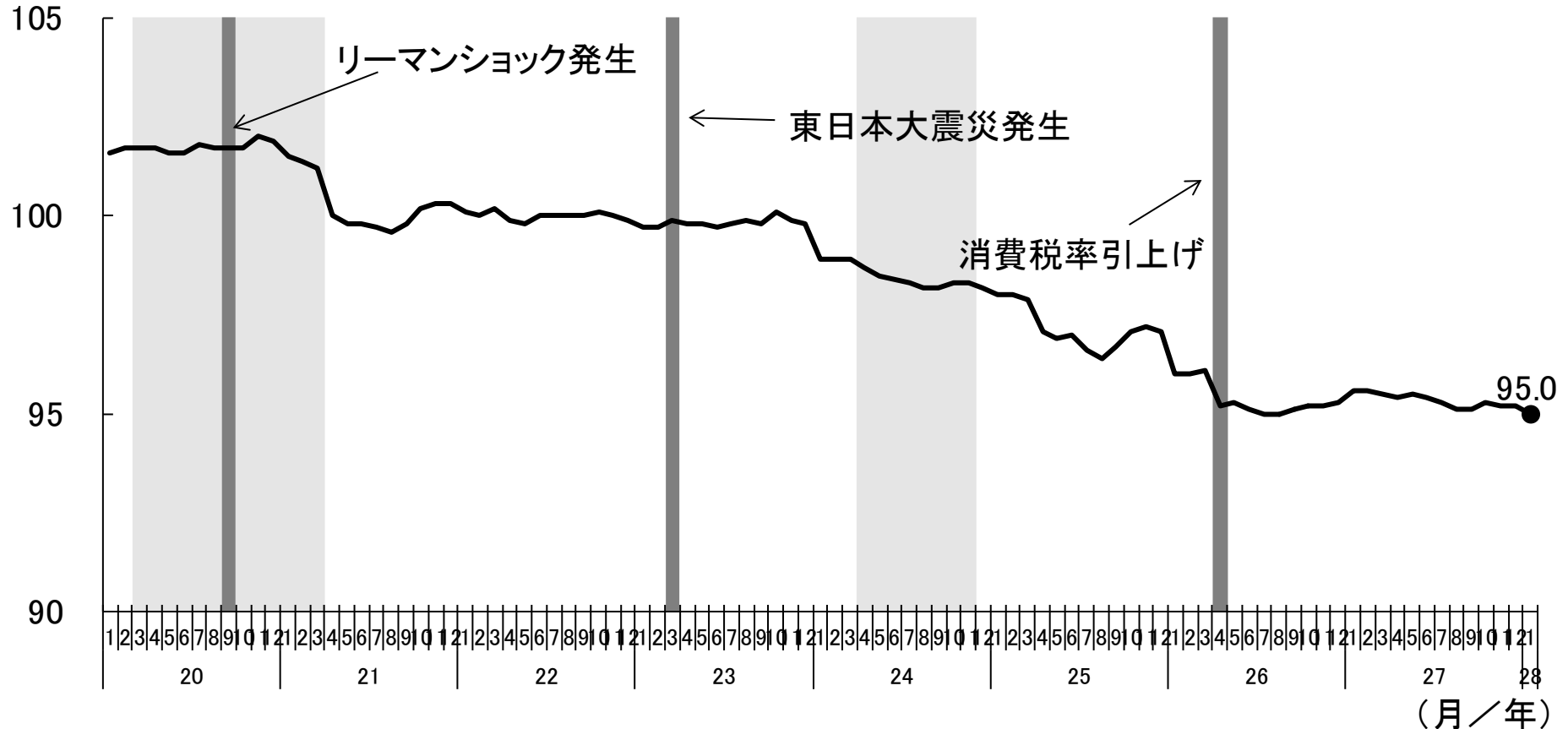


(注) 28年 I は、平成28年1月の値。

製造工業生産能力指数の動向

- 平成28年1月の生産能力指数は95.0(前月比▲0.2%)と2か月ぶりの低下。

(22年=100、原指数)



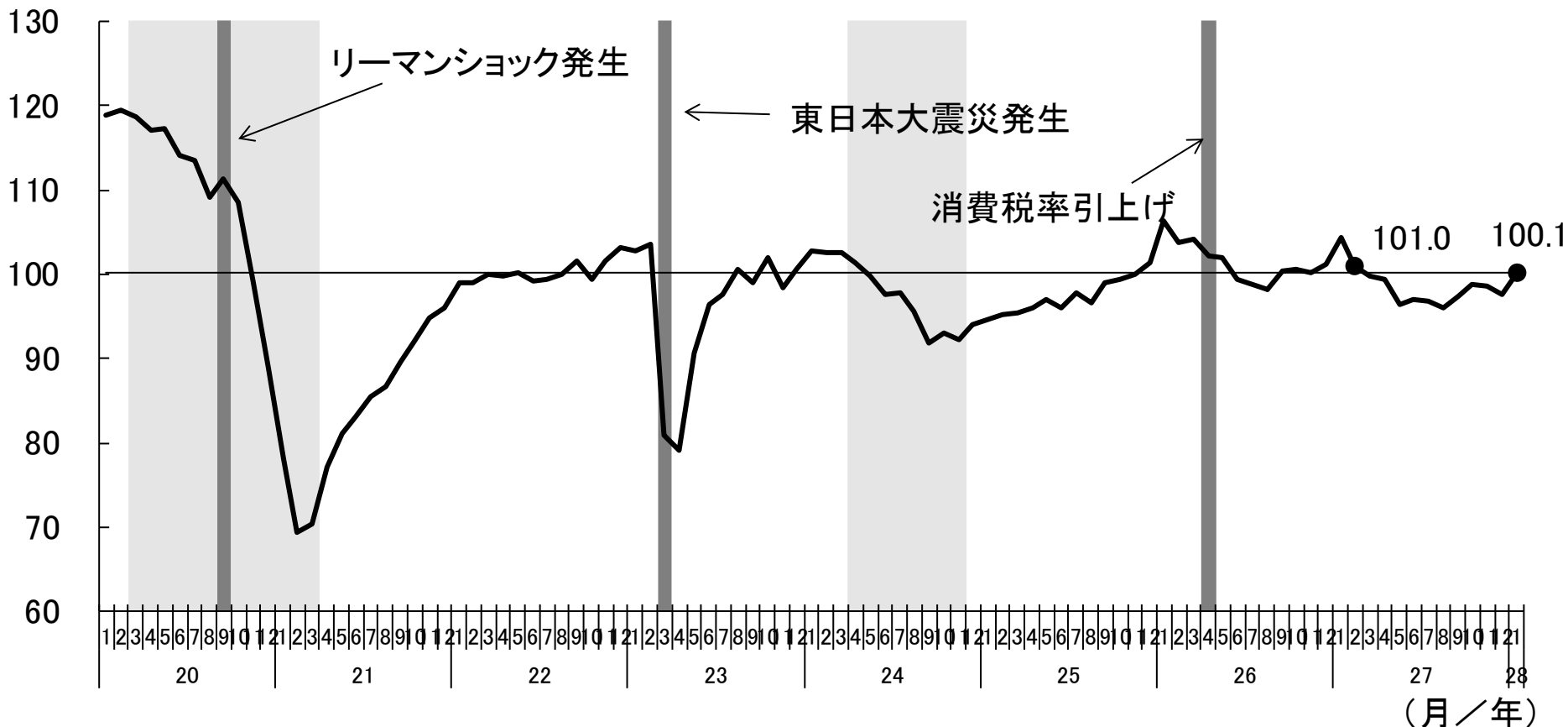
(注) 1. 製造工業生産能力指数とは、月々の製造工業の生産能力を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

2. 薄色のシャド一部分は景気後退局面。

製造工業稼働率指数の動向

- 平成28年1月の稼働率指数は100.1（前月比2.6%）と3か月ぶりの上昇。
- 平成27年2月の101.0以来の指数水準。

（22年＝100、季節調整済）

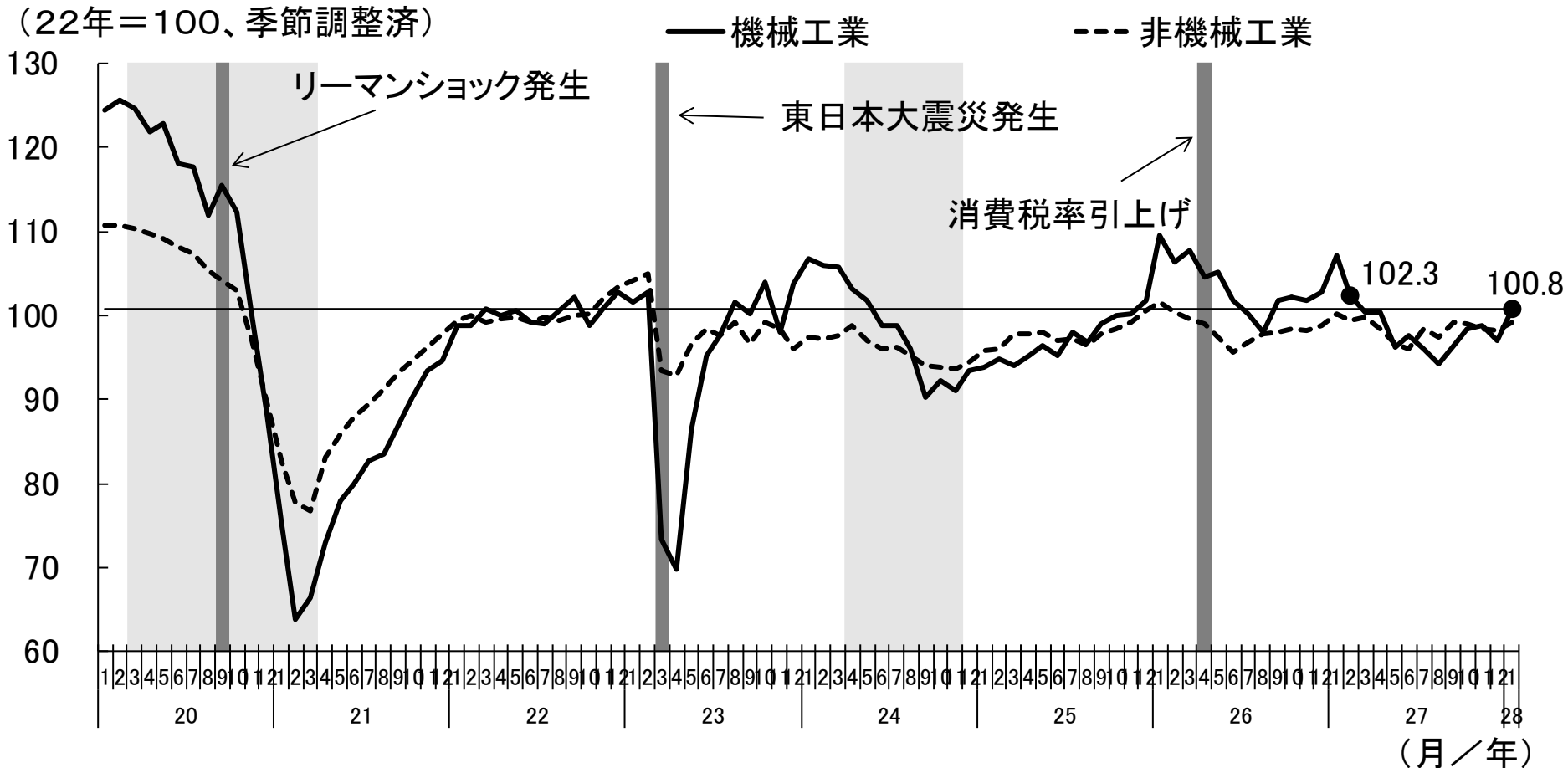


（注）1. 製造工業稼働率指数とは、月々の製造工業の稼働率を基準年（現在は平成22年）の12か月平均＝100として指数化したもの。

2. 薄色のシャドー部分は景気後退局面。

機械工業と非機械工業の稼働率指数の動向

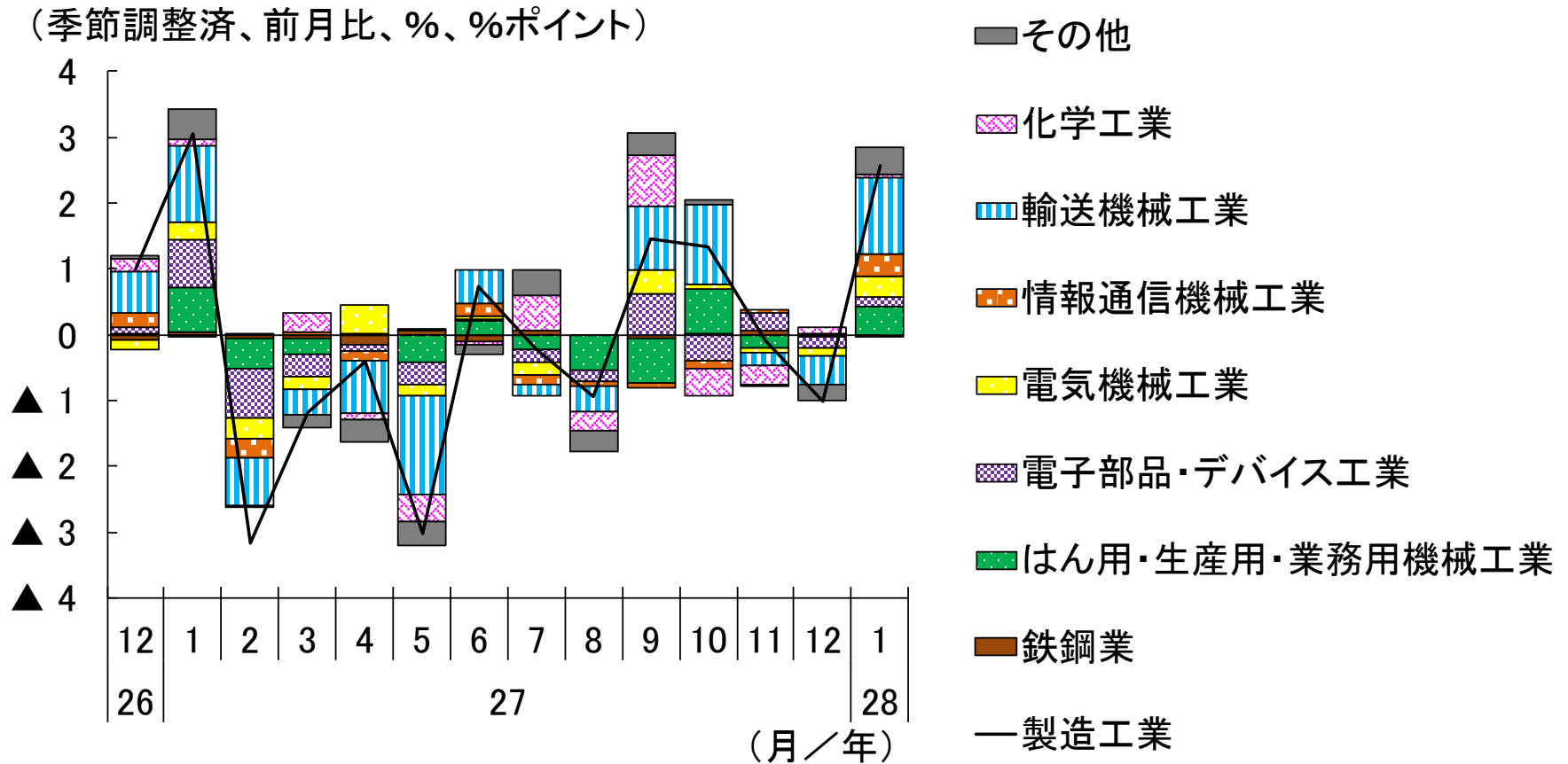
- 平成28年1月の機械工業は100.8(前月比3.8%)と2か月ぶりの上昇。平成27年2月の102.3以来の指数水準。
- 一方、非機械工業は、99.1(前月比0.8%)と4か月ぶりの上昇。



(注)薄色のシャド一部分は景気後退局面。

稼働率指数への業種別寄与度分解

- 平成28年1月の稼働率指数(前月比、季節調整済)は、鉄鋼業が低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前月比2.6%の上昇。

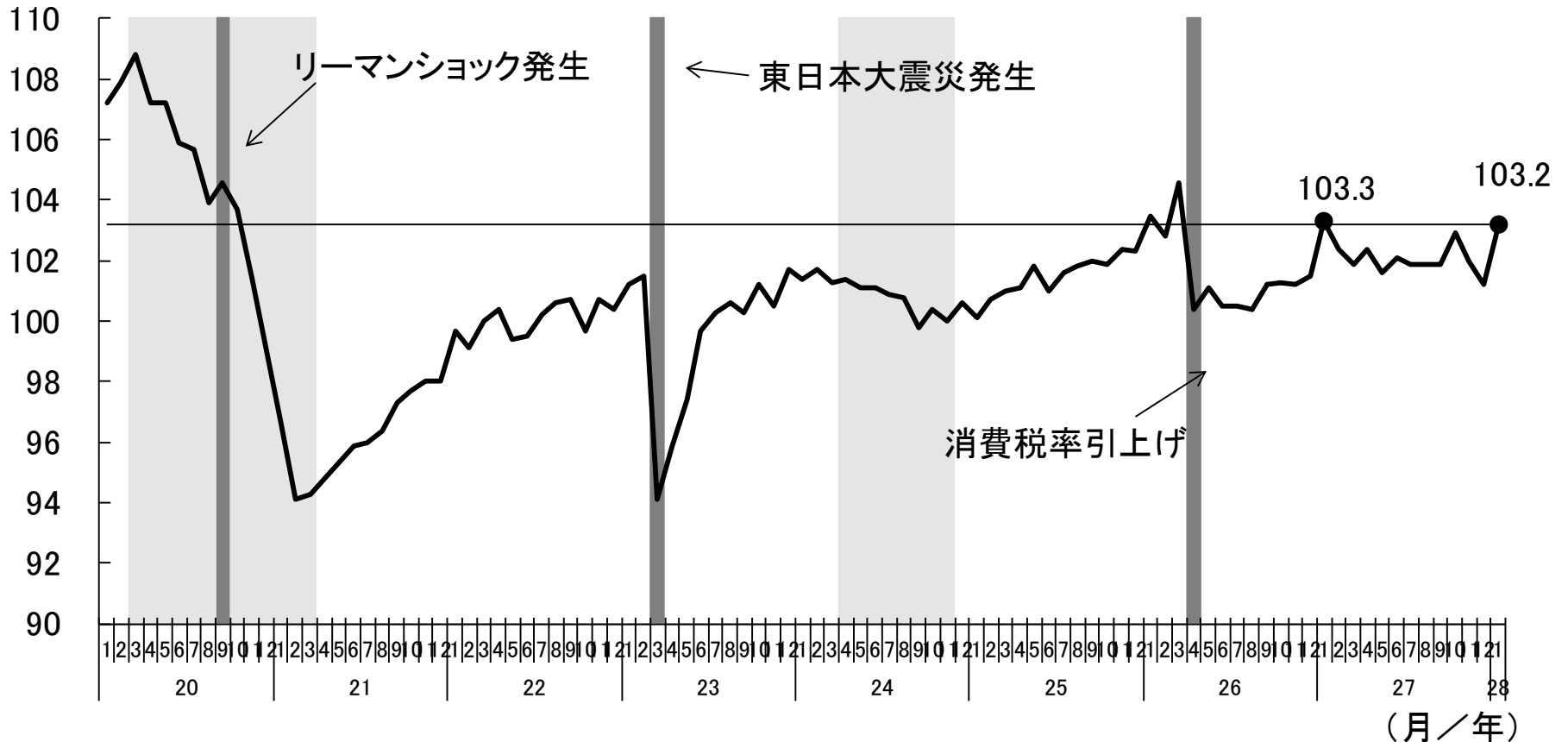


(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、その他工業が含まれる。

統合指数(試算値)の動向

- 平成28年1月の統合指数(試算値)は、103.2(前月比2.0%)と上昇。
- 平成27年1月の103.3以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



- (注) 1. 統合指数(試算値)は、鉱工業生産指数及び第3次産業活動指数の季節調整済指数を全産業活動指数のウェイトで加重平均することにより算出。
2. 薄色シャド一部分は景気後退局面。

統合指数(試算値)に対する産業別寄与度分解

- 平成28年1月の統合指数(前月比、季節調整済)の内訳をみると、第3次産業活動(前月比寄与度1.16%ポイント)、鉱工業生産(同0.78%ポイント)がともに上昇したことにより、前月比2.0%の上昇となった。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

